

「ふるさと春日井学」研究フォーラム

Forum for Furusato Kasugai Studies

「ふるさと春日井」まちづくりへの応援メッセージ

『ふるさと意識なくして地域の活性化なし』

会報

NO. 72

2019.12.29 発行

編集責任者：河地 清

Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

第 72 回 「ふるさと春日井学」研究フォーラム

テーマ『ふるさと春日井のまちづくり』

—元国鉄機関士から見た JR 中央線高蔵寺駅前の今昔—



講師：松本 孜氏



会場風景

2019年（令和元年）12月1（日）市民活動支援センター（ささえ愛センター）において「ふるさと春日井学」研究フォーラムをテーマ『ふるさと春日井のまちづくり—元国鉄機関士から見た JR 中央線高蔵寺駅前の今昔—』で行いました。参加者は21名でした。

講師の松本孜（つとむ）氏は昭和10年生まれで84歳、元国鉄の機関士で、D51機関車の運転士として機関車運転席車窓から高蔵寺駅前界隈の風景の変貌をつぶさに見つめてこられました。国鉄退職後も弥生町にある児童交通公園に置かれたD51蒸気機関車保存会の補修にも参加され、子どもたちに解説も担当されておられます。

生まれも育ちも生粋の高蔵寺人で地域の盛衰の一部始終を見てこられました。「まちづくり」にはこうした人々の声に耳を傾けることが大切であると思います。今フォーラムでは氏の貴重な証言を伺って「まちづくり」の参考にしていければと思っています。

講演内容は、第1部「高蔵寺の昨今」15項目、第2部「自分自身の小史」6項目の題目をレジュメに用意されて、話が進められました。

《講演要旨》



I. 高蔵寺界隈の今昔 ①生まれたのは、今の高蔵寺町玉川村。150年前は100戸足らずの農村で、小作人ばかりで自給自足の生活であった。歴史のある天台宗燈明山高蔵寺(註市指定有形文化財の平安時代作の木造薬師如来像が安置されている。平安中期の933年に比叡山の僧智蔵によって創建されたと伝えられ、十二坊があったが、永禄年間(1558-1570年)の火災

で実相坊だけが残った。)熱田の高倉寺と深い関係がある。村民の誇りだった。村人は坂下に出かけて学び養蚕業を始めた。遠く群馬に出かけ技術を学んだ。いつのまにか高蔵寺は養蚕の村になった。娘さんが坂下や内津の養蚕・製糸場に働きに出た。(註昭和9年には大不況で衰退)また、玉川用水から二反田に水を引き、水田が栄えた。村のリーダー(註頭百姓卯蔵)が代官所に願出て許可を得たが、工事費がべらぼうに高く(註30両、利子が高く計60両)、佐枝將監種武に借金して寛政5年に完成した高蔵寺分水であった。

②中央線が開通して高蔵寺駅周辺はどうだったか … 中央線の全線開通は明治44年(1911)だった。明治25年に鉄道設置法ができ、明治27年に帝国議会で中央線の建設が決定された。名古屋と八王子に鉄道局の出張所が設けられ、工事は東西両方から開始された。最大の難所は木曽福島から宮の腰間であったが、明治44年5月に開通した。名古屋・多治見間は3案あったが、多治見～高蔵寺～大曾根～名古屋の路線が決まった。高蔵寺では猛反発もあった。鉄道で南北が分断されるというのが反対理由だった。大正14年には定光寺駅もできた。東京まで20時間でむすばれることになった。高蔵寺駅前(南)には約150mに渡って荷着場ができた。スライドで「70年前の高蔵寺駅周辺」の手書きの地図が映され、柄屋・芝屋・鍛冶屋・目立屋・陶屋・肥料屋・桶屋/近藤製糸・中央耐火・高蔵トイシ・農協/料亭・芸者置場/風呂屋・玉突・質屋・パチンコ屋があった。庄内川の魚とりで網屋もはやった。駅前通商店街・本町通・高蔵寺駅前の写真も映された。

③高蔵寺と周辺の町村の交流(略)④どんな商店があったか(上述)⑤農業と養蚕、炭鉱の町として栄えた⑥年中行事(略)⑦戦争中の高蔵寺(炭を乾かし、木炭バスを走らせた)⑧二反田池について(稲作倍増した。現在は徳洲会病院)⑨全国的に知られた有名人(俳優・監督の奥田瑛二。本名は安藤豊明、実家は弟豊彦が継ぐ)⑩葬儀⑪高蔵寺劇場(奥田瑛二は姉に連れら

れよく通った)⑫高蔵寺に中央線が建設されるプロセス(Ⅰで紹介済み)⑬めまぐるしいまちの変化と共に今後の高蔵寺の歩み⑭今も残念でならない交通網計画の断念(今もモノレール予定地が残る)⑮今後の高蔵寺をどう発展させていくのかの私案について。

Ⅱ. 今後のまちづくり … 2019.11.13 付 i) 中日新聞の記事「わが街 ぶらり探訪」が資料で紹介された。東の玄関としての高蔵寺駅の地下連絡通路で、一日限定のイベントが 10 日に開かれた第 4 回の「歌う!高蔵寺マーケット」が開かれたという記事。少子高齢化などを抱えたニュータウンの再生に向けた検証実験的な意味合いをもつというものだ。駅の集客力を利用する賑わい創出の試みである。市が策定する「高蔵寺リ・ニュータウン計画」の先行プログラムに位置づけられる。しかし、送迎で訪れる人の駐車場がなく、人が滞留しないというハード面での課題がある。ii) 資料にはもう一つ「春日井市都市計画マスタープラン計画地域懇談会」の紹介がある。「JR 高蔵寺駅・高蔵寺ニュータウン周辺エリア」の懇談会での意見・要望が 3 つ紹介されている。1)自然環境の良さ 2)今後の空地や空き家を地域のコミュニティを創出する場に 3)JR 高蔵寺駅周辺の活性化とバスの拡充や自転車道の整備等交通環境の整備。

Ⅲ. 自分自身の小史として国鉄運転士時代を語る … ①昭和 29 年 4 月に国鉄に入社。整備作業を 2 年半、試験を受けて多治見機関区で 2 年半機関士を勤めた。トンネルは外ら見ると大きいのが、運転すると手を出すと壁に触れるほど小さく難儀した。7号トンネルが一番長かったが、煤煙で大変だった。蒸気機関車は昭和 42 年春まで走っていた。④中央線が一番役に立った貨物輸送 … 瀬戸の陶磁器は高蔵寺駅まで牛車で運ばれ、中央線で全国に輸送された。日本セメントの生セメントを毎日、富田→稲沢→信濃大町に輸送した。一番記憶に残っているのは発電所だ。②D51 は製作台数が一番多かった理由 … 主に貨物輸送用の D51 は 1,115 両作られた。この単式 2 気筒で加熱式テンダ式蒸気機関車は機関車は C11 形ボイラーの伝記溶接技術を応用した会心作だった。弥生町の児童交通公園にある D51792 は 1942 年製で三菱重工が製作した。⑤マニアから寄せられた質問から … プレーキのかけ方の質問が中学生からあった。会場でも問われたが、誰も答えられなかった。ハンドルがないのにどうやってカーブを回するのかと質問もあった。(記録 塚田忠雄)

OPINION (編集後記にかえて)

『ふるさと春日井のまちづくり』

—高蔵寺地域の活性化に期待したい—

春日井市都市計画マスタープランが 2020 年～2030 年に向けてはじまります。市民が望む将来構想が集約されました。春日井の未来のかたちづくりがはじまります。

『第六次総合計画』の主題「地域資源＝強み」を活かした『まちづくり』に期待したいと思

います。

春日井市都市計画マスタープラン地域懇談会（まちづくり推進部都市政策課）の第2回地域懇談会（平成30年12月16日（日））における（「地域別構想」の作成に向けて「将来の方向性」）から、現時点における地域住民の意識は下記のように集約されています。『春日井市都市計画マスタープラン地域懇談会実施報告書』（2019年4月春日井市）参照。

◎ JR高蔵寺駅・高蔵寺ニュータウン周辺エリア（中学校区：高蔵寺、藤山台、岩成台、石尾台、高森台）

※緑も豊かで公園も多く、自然が身近に感じられる環境は、次世代へ向けて守り受け継いでいくべき本地域の資源だと思う。※今後増加が懸念される空き地や空き家は、地域のコミュニティを創出する場として転換を図りたい。※JR高蔵寺周辺の活性化を図るとともに、バスの拡充や自転車道の整備など交通環境が整った街になって欲しい。身近に感じられる自然は良好な住環境を形成している重要な要素となっているため、しっかり保全していくべきである。※通学路や公園の安全性を高めるなど子育て世代に安心して暮らせる環境を築いていきたい。

以上をまとめると

- ①暮らしの安心・安全のための環境整備（コミュニティバス、幹線、地域線道路、自転車道路の渋滞改善・整備）
- ②地域の活性化（祭り、伝統行事、神事など地域文化・歴史資源の活用、空き地、空き店舗、空き家の再利用、商店街の活性化）
- ③地域の緑、景観の保存（農業の振興、自然資源の活用と保全）等に集約されるのではない

70年前の駅前 でしょうか。

これらの具現化は、何よりも地域の人たちによる主体的な「まちづくり」に向けての取り組みが前提です。現在では「高蔵寺まちづくり株式会社」、「NPO法人エキスパネット」などの組織が「地域活性化」を意識した活動で奮闘しておられます。

高蔵寺駅前通



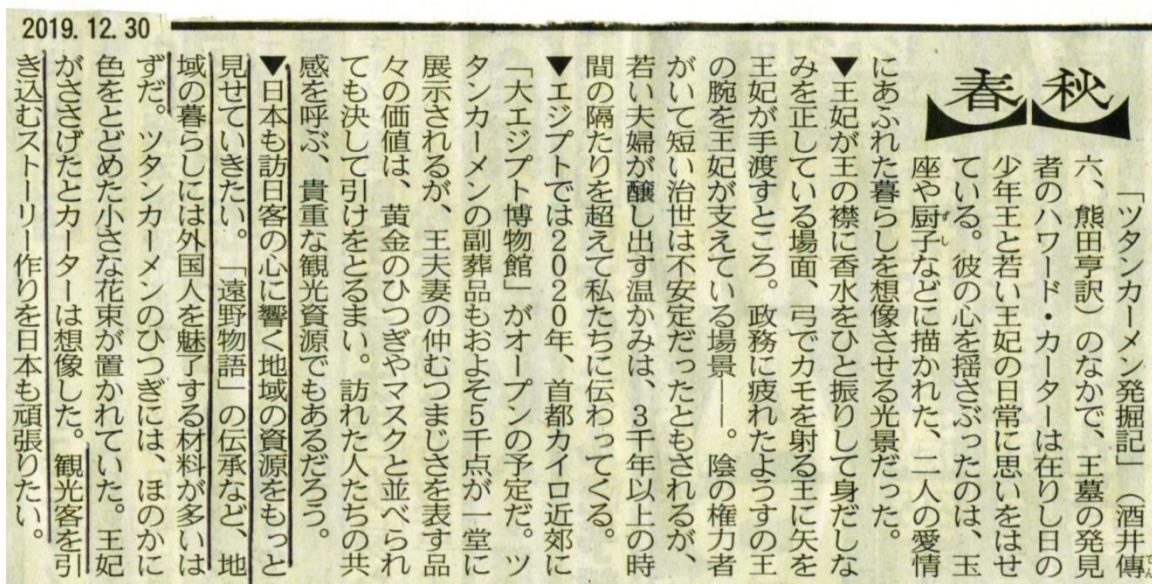
現在の高蔵寺商店街風景（駅前）



高蔵寺駅前



行政は、こうした活動を支援するべく、住民の声をただ単に「聞き置く」「パフォーマンス」に終わらないように着実にアクションを起こしていただくことを望みたいものです。



上記日本経済新聞の記事は地域活性化に示唆的コメントをしていますので掲載いたしました。

高蔵寺地域には豊かな自然・歴史・文化の資源が豊富に存在している地域であることは今まで多く語られてきています。『高蔵寺町誌』(昭和7年刊)『玉野のいま昔』(2014.3刊)等の文献を参照しながら歴史・文化散策ルートがつかれます。何よりも他地域にはない豊かな自然環境があることが強みです。玉野地区を中心とした、名古屋の奥座敷としてかつては賑わいを見せていた地域です。「山紫水明」の風景は観光資源として再生活用してゆべき貴重な資源です。中部電力玉野発電所は、近代産業遺構としての価値を持つ大切な構造物です。玉川用水の歴史は農業振興の歴史であり数々の石碑を見ることによって先祖の悪戦苦闘に想いを馳せることが出来ます。JR 定光寺駅周辺の愛岐トンネル群は、現在でこそ名所化してきていますが近代産業遺構としての歴史的価値を認識した一部の有志の人々の保存活動によって保存された貴重な地域資源の活用例として地域活性化に大きな役割を果たしています。高蔵寺ニュータウンの再生活用と駅周辺地域との連携活性化、豊かな自然環境の活用、JR 中央線、愛環鉄道、名古屋市営ゆとりーとラインの高蔵寺駅乗り入れによるアクセス環境の優位性、高蔵寺地域にしかない歴史と文化等々の活用、「まちづくり」に必要な条件を総合的にリンクさせて地元の人々だけではなく多くの人たちが共感し、魅力を感じ引き付けられるような「ストーリー」をつくりあげてゆけるに十分な環境が高蔵寺地域にはつまっているように思います。地域資源を活かした「まちづくり」が「第六次総合計画」の柱であることに全面的に賛同するものですが過去の反省を踏まえるならば一つ一つ実効性のあるアクションが実施されてこそ市民の期待する「まちづくり」になるのではないかと思います。(文責:河地 清)

第73回

<発表の概要> 「ふるさと春日井の自然」をテーマとして、築水池を中心にして春日井の自然環境の実態を語っていただきます。絶滅危惧種が群生する自然の保護は……？

ふるさと



春日井学研究フォーラム

Forum テーマ：『ふるさと春日井の自然環境』

—築水池周辺を中心に—

講師：内海 勇夫 氏（春日井市自然友の会会員）

日時：2020年2月2日（日） 午後1時30分～4時

場所：市民活動支援センター（ささえ愛センター）2階

TEL：0568-56-1943（〒486-0837 春日井市春見町3番地）

※（非会員の方のみ資料代500円当日徴収させていただきます。）定員30名（定員でぐ切ります）

※申し込み 事務局：〒486-0825 春日井市中央通り2-9 TEL・FAX0568-82-5973 会長 河地 清

mail address:kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp かすがい市民活動情報サイト：<http://kasugai.genki365.net/>

ふるさと春日井学検索 